

平成25年度活動報告書

会 員 名	高岡市			
活 動 名	港で働く船大集合			
主 催 者	伏木港まつり実行委員会			
報 告 者	所属	高岡市産業振興部みなと振興課	TEL	0766-44-0484
	氏名	山村紘次	E-mai	h-yamamura01@city.takaoka.lg.jp
協議会以外の共催・後援等	共催：北日本新聞社、協賛行事：海上自衛隊、国土交通省、海上保安部、税関、高岡市消防本部、富山県			
実 施 時 期	平成25年8月3日			
実 施 規 模	7,000人			
実施事業費	1,760,108円			
実 施 概 要	活 動 全 般			
	他港から大型船舶を誘致するとともに、日ごろ伏木富山港で活躍する舟艇等の紹介や伏木港内の体験乗船などを行うことにより、伏木港の魅力や役割を再認識し、もって市民のみなとまちづくりの意識高揚や伏木地域の活性化を図ることを目的とする。			
	<イベント内容> ○海自衛隊護衛艦、国土交通省大型浚渫兼油回収船の誘致 ○船舶の一般公開、体験航海、放水体験、潜水土公開訓練 ○物販、飲食コーナーの設置			
	他の会員の参考となる新しい試み等 ・北前船を模したシンボル船の作成 ・海上自衛隊護衛艦及び国土交通省大型浚渫兼油回収船合同入港歓迎式典の開催			
実施にあたり苦労した点 (今後他の会員が実施する上で注意する点)	船舶を並べることで広大になったイベント会場を、ストレスなく回っていただけるよう、中心にメインとなる大きな船舶、川上側に次に集客できそうな体験航海の船舶を配船した。車の移動のアナウンスが、その車の運転手が体験航海に参加中のため伝わらなかった。			
参加者の反響 (参加者の声)	普段乗ったり中を見れたりできない船が一般公開されてとても面白かった。船そのもの以外に、港で働いたり、船員さんや船長さんといった仕事に興味をもった。			
活動に対するPR内容	別紙：総会活動支援報告参照			
マスコミ等の反響	別紙：総会活動支援報告参照			
実施状況写真	別紙：総会活動支援報告参照			

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 活動支援報告

【伏木外港着工25年・伏木万葉ふ頭供用開始15周年記念イベント】

～ 『伏木港まつり』を活用した
“みなと”の役割や楽しさの発信 ～

平成25年10月3日



高岡市

伏木富山港の概要

- ・伏木富山港は、本州の中央部に位置し、その恵まれた地理的条件により、古くから日本海側の重要な港として栄え、1986年に特定重要港湾に指定された。
(港湾法の改正により、2011年4月に国際拠点港湾に名称変更)
- ・大正時代に臨海工業地帯が形成され、外港への機能展開を図っている伏木地区、運河を活かした魅力ある水辺空間を持つ富山地区、増大する外貿コンテナ貨物に対応する新湊地区の3地区で構成され、県内外の社会経済の一翼を担っている。



伏木地区

(高岡市)

新湊地区

(射水市)

富山地区

(富山市)

<高岡市の概要>

人口：約17.8万人、面積：約210km²(東西25km×南北20km)

特産品：アルミ・銅器・漆器、観光：雨晴海岸・瑞龍寺・古城公園・高岡大仏・御車山祭・伏木曳山祭

伏木地区の特徴：万葉時代から利用された歴史ある港町であり、江戸時代は北前船の寄港地

近年は背後工業用地(化学品・製紙)の原材料の供給拠点

伏木港の外港展開と日本海側拠点港の役割



伏木外港着工25年 進む外港展開と離れ行く住民心理



新たな活用 2011年国交省施策
「日本海側拠点港」としての役割

- ・ 国際フェリー・国際RORO船 → 新たな機能による活性化
- ・ 外航クルーズ（背後観光地） → 交流によるまちづくり

身近な河口港から
外港へと展開している

ロシア関税やリーマン
ショック等による物流
（船の寄港）の減少



元気がなく、遠くなった
伏木港！

船を間近に見なくなった
船員さんを見なくなった

不安と焦燥

みなとまち伏木とは？

港があるまちとしての気運づくりに向けて！！

方針： 今後の外港展開や伏木港の活性化を図っていくためにも、

今、港湾所在市である“高岡市”としてできることは？

⇒ まずは、「みなとが私たちの生活に欠かせない」

「みなとが町にあると楽しい」

ことを市民に知ってもらう



手段： 毎年開催される地元のお祭り「伏木みなとまつり」を活用して、

もっと、“みなとの役割”を周知

⇒ 今までのみなとまつりの伝統的な行事に加え、

日ごろ活躍している船を集めて紹介や

体験乗船をしてもらうことで、

みなとを肌で感じ、まちづくりの意識高揚や伏木地域の活性化につなげる



『魅力いっぱい船いっぱい！港で働く船大集合！』事業の実施

港で働く船大集合の概要

事業イメージ



平成元年(1989)の伏木外港着工から25年目、平成10年(1998)の供用開始から15周年を記念し、伏木港等で働く船の紹介やイベントを開催する。

また、富山県置県130年、北陸新幹線「新高岡駅」開業記念イベントとしても位置付ける。



伏木港まつり「港で働く船大集合」の様子

外港エリア

- ①自衛隊護衛艦(体験航海有)
- ②国交省大型浚渫兼油回収船
※その他物販等を実施

左岸エリア

- ③海保巡視船(潜水土公開訓練)
- ④国交省業務艇(体験航海)
- ⑤高岡市消防艇(放水体験)
- ⑥その他(曳舟、税関船等)
※オープニングセレモニー、物販、
パネル展示等を実施

港で働く船大集合の実施状況

①オープニングセレモニー（北前船を模したシンボル船のお披露目）



②海上自衛隊護衛艦「ちくま」、国土交通省大型浚渫兼油回収船「白山」の誘致



港で働く船大集合の実施状況

③船舶の一般公開及び、潜水土公開訓練、体験乗船、放水体験(1/2)



港で働く船大集合の実施状況

③船舶の一般公開及び、潜水土公開訓練、体験乗船、放水体験(2/2)



港で働く船大集合の実施状況

④物販・飲食コーナー・PRブース等の設置



北日本新聞(朝刊)平成25年8月4日(日)

富山新聞(朝刊)平成25年8月4日(日)

働く船7隻共演



伏木港左岸にそろうた(左から)なこかせ、たてやま、やまと、やひこ、日本海

伏木港まつり 見学・航海体験も

高岡市伏木地区の「伏木港まつり」(北日本新聞社主催)の2日目は3日、伏木港や伏木万葉ふ頭周辺で、船舶7隻が集まる「港で働く船大集合」が行われた。大勢の家族連れらが船内の見学や航海体験などを楽しみ、船の魅力に触れた。夜には踊りの町流しがあり、祭りムードは最高潮を迎えた。4日まで。

【Weebunに写真3枚】

「港で働く」は、伏木外港着工25年や伏木万葉ふ頭供用開始15周年などを記念して開催。オープニングセレモニーで、北前船を模したシンボル船(全長2・5㍎)が披露され



華やかな踊りを繰り広げた町流し

500人華やかに町流し

地区中心部での町流しには、小中高校生や婦人会員ら約500人が参加。児童がロープで引く「伏木丸」を先頭に、伏木帆柱起し祝唱と伏木けんか山七福神音頭に合わせて華やかに練り歩いた。

この日は、納涼花火大会会場の清掃や伏木中学校弓道部員らによる「港と弓の祭典」などもあった。

古市義雄同まつり実行委員会会長が「伏木がますます栄えますように」と願いを込めました」と話し、船名を「伏木丸」と発表した。

伏木港左岸には、県の引船「日本海」(同31㍎)と、伏木海上保安部巡視船「やひこ」(91㍎)、高岡市消防本部消防艇「やまと」(21㍎)、伏木税関支署広域監視艇「たてやま」(24㍎)、伏木富山港湾事務所港湾業務艇「なこかせ」(16㍎)がそろった。来場者は乗組員から説明を受け、船内を見て回った。体験航海や海保潜水士の公開訓練もあり、それぞれの仕事を深めた。

「やまと」で船上からの放水を体験した金元孝哉君(高岡市能町小2年)は「水が遠くに飛んでうれしかった。船は、かっこよかった」と楽しそうに話した。

伏木万葉ふ頭には、国土交通省大型渡来兼油回収船「白山」や海上自衛隊護衛艦「ちくま」が接岸した。

伏木港まつり 船内見学や体験航海

伏木港まつりの第2日は3日、高岡市伏木地区で行われた。伏木外港着工25年、伏木万葉ふ頭供用開始15周年などを記念したイベント「港で働く船大集合!」では日本沿海で活躍する船舶7隻が伏木港に一堂に会し、親子らが船内見学や体験航海で魅力を体感した。

集まったのは、海上自衛隊の護衛艦「ちくま」、国土交通省北陸地方整備局の大型渡来・油回収船「白山」、県の引船「日本海」、伏木海上保安部の巡視船「やひこ」、高岡市消防本部の消防艇「やまと」、伏木税関支署「ま」、伏木富山港湾事務所の港湾業務艇「な



「ちくま」を見学する来場者

高岡市の伏木万葉ふ頭

マスコミ等の反響

富山新聞(朝刊)
平成25年7月31日(日)

8月3日に高岡市伏木港で行われる伏木港まつりで、北前船の10分の1サイズの模型が「シンボル船」として登場する。同まつり実行委員会の依頼を受けた水見市北大町の船大工番匠光昭さん(67)が作り、関係者が30日、視察に訪れた。神輿のように担いでまつりの盛り上げに一役買う。シンボル船は伏木が江戸時代に北前船の取引で栄えたことから、高岡市の伏木外港着工25年・伏木万葉ふ頭供用開始15周年の記念事業で制作した。船は長さ2・5㍎、幅は0・7㍎、船底か



古市会長(右)に北前船のシンボル船について説明する番匠さん
—水見市北大町

伏木の北前船復元

3日、港まつりで披露

水見の船大工 10分の1 模型制作

ら帆までの高さが2・5㍎。船体はスギ、側面はアテ、船首部分はケヤキを使用した。番匠さんが図鑑に掲載された北前船の絵を基に復元した。扉が開閉でき、荷物を積み下ろす手すりの部分が外れるなど細部にこだわった。車輪付きの台に載せて子どもも引くことが可能。30日は伏木港まつり実行委員会の古市義雄会長(81)と高岡市職員が見学した。古市会長は「伏木のシンボル船にふさわしい。神輿のように『港の神様』と

北日本新聞(朝刊)平成25年8月2日(金)



大型浚渫船「白山」入港

高岡市伏木地区の夏の恒例イベント「伏木港まつり」(北日本新聞社共催)が2日、同港周辺で始まる。4日までの期間中、各種船舶7隻が集まるイベントや花火大会、踊りの町流しなど多彩な催しが繰り広げられる。1日は、7隻のうち国土交通省大型浚渫兼油回収船「白山」(4185ト、全長93・9㍎、幅17㍎)

が伏木港に初めて入港し、祭りムードが高まった。まつりは、地元自治会などで行う実行委が主催。2日はクイズやライブ、午後8時から伏木万葉ふ頭で納涼花火大会が行われる。

きょうから伏木港まつり

3日は、伏木外港着工25年などを記念した企画「港で働く船大集合」を実施。白山のほか県引船「日本海」や海上自衛隊護衛艦「ちくま」など7隻が並び、一般公開や体験航海が楽しめる。船や行政のゆるキャラも登場する。伏木中学生らによる「港と町の祭典」や、伏木帆柱起し祝い唄に合わせた町流しもある。「白山」の佐藤尚米船長は「港まつりでは、船の役割を分かりやすく説明したい」と話した。

まつりの問い合わせは実行委、電話0766(44)0481(午前8時半〜午後5時15分)。

伏木港に入港した白山

北陸中日新聞(朝刊)
平成25年8月4日(日)

○地元CATV1社に於いて「働く船大集合」の報道がなされた。

働く船港にずらり

イベント「港で働く船大集合」が三日、高岡市伏木地区の伏木港であった。国土交通省の大型しゅんせつ兼油回収船「白山」、伏木海上保安部の巡視船「やひこ」など七隻が伏木港で公開され、家族連れらでにぎわった。(飯田克志)

開会式では、港町・伏木地区の象徴として制作された江戸時代に海運で活躍した北前船を模した木造船(全長二・五メートル)が披露された。地元自治会などでつくるまつり実行委員会が制作を企画。港町の繁栄を願う「伏栄丸」と命名したことが報告されると、会場から拍手が起きた。県の引き船「日本海」、伏木税関支署の広域監視艇「たてやま」なども公開され、訪れた人たちは普段見られない船内を物珍しそうに見学していた。海上自衛隊の護衛艦「ちくま」の体験航海や市消防本部の消防艇「やまと」の放水体験もあった。

イベントは二日に開幕した伏木港まつりの一環。伏木外港着工二十五周年、伏木万葉の頭の利用開始十五周年を記念し企画された。港まつりは四日まで。

榎木孝明さんが自作水彩展来場

波

俳優の榎木孝明さんが三日、「榎木孝明水彩紀行展―絵筆でつづる、浪漫の旅」(北陸中日新聞後援)が開かれている砺波市中村のチューリップ四季彩館



披露された伏栄丸の帆を上げる園児たち。左後方は巡視船「やひこ」――高岡市伏木湊町で

高岡・伏木 巡視船など 模型船披露も

国土交通省、富山県をはじめ、港湾関係のみなさま
高岡市としても“みなと”による地域の“元気”や“まちづくり”に
取り組んでまいりますので、伏木港の活性化に向け引き続きの
ご支援・ご協力をお願いいたします。



ご清聴ありがとうございました。